

国際極年 IPY 2007-2008 における諸活動

Activities in International Polar Year 2007-2008

国際極年 2007-2008 対応小委員会 佐藤 夏雄 [1]

Sato Natsuo IPY 2007-2008 national committee[1]

[1] -

[1] -

<http://polaris.nipr.ac.jp/~ipy/>

国際的な大規模共同事業により南極・北極の調査や研究を推進し、惑星地球の状況・変動について知見を深めるために、国際極年（IPY: International Polar Year）が行われている。1882年の第1回以来、過去に3回開催され、前回1957～58年の「国際地球観測年（IGY）」を契機に日本の南極観測が開始された。国際科学会議（ICUSU）と世界気象機関（WMO）は、IGYの50周年となる2007年から2008年へかけて、第4回目として位置づけられる国際極年2007-2008を企画した。これに呼応してさまざまな国際研究団体が参加を表明し、南北両極での観測を立案した。わが国でも、日本学術会議に設置されたIPY対応小委員会を中心に、国立極地研究所や大学等の研究者が意欲的な観測計画を現在実施中である。極地研究を遂行する上で、厳しい環境下に広がる広大な観測空白域での観測には困難が伴うため、国際協力が必要不可欠である。また主要な目的の一つとして、極域研究の意義や重要性を一般に啓蒙する「アウトリーチ」があり、中高生オープンフォーラム等、諸活動が行われている。